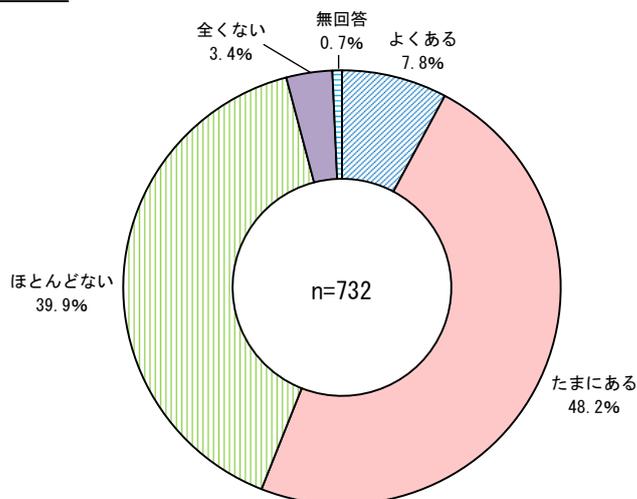


5 犯罪のない安全で安心な地域づくりについて

問 25 あなたは、犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じることがありますか。

次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「たまにある」(48.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「ほとんどない」(39.9%)、「よくある」(7.8%)の順となっている。

【圏域別】

「たまにある」については、オホーツク連携地域(60.0%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(50.0%)となっている。「ほとんどない」については、十勝連携地域(54.4%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(48.9%)となっている。

【人口規模別】

「たまにある」については、人口10万人未満の市(51.2%)が最も割合が高く、次いで札幌市(48.5%)となっている。「ほとんどない」については、町村部(44.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(39.5%)となっている。

【性別】

「たまにある」については、男性45.1%、女性51.3%となっており、「ほとんどない」については、男性40.7%、女性39.4%となっている。

【年代別】

「たまにある」については、40～49歳(52.6%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(50.5%)となっている。「ほとんどない」については、60～69歳(49.7%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(47.3%)となっている。

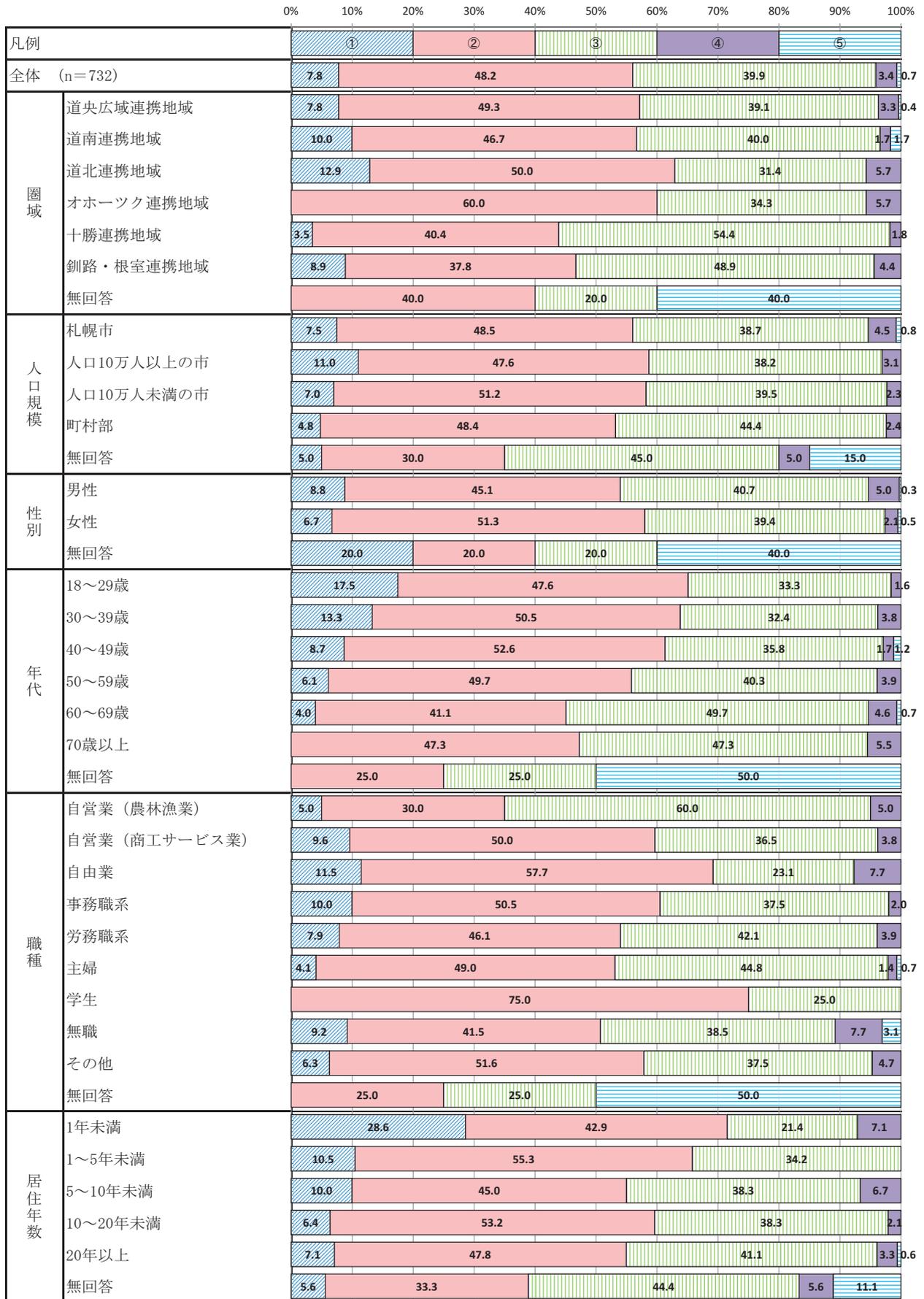
【職種別】

「たまにある」については、自由業(57.7%)が最も割合が高く、次いでその他(51.6%)となっている。「ほとんどない」については、自営業(農林漁業)(60.0%)が最も割合が高く、次いで主婦(44.8%)となっている。

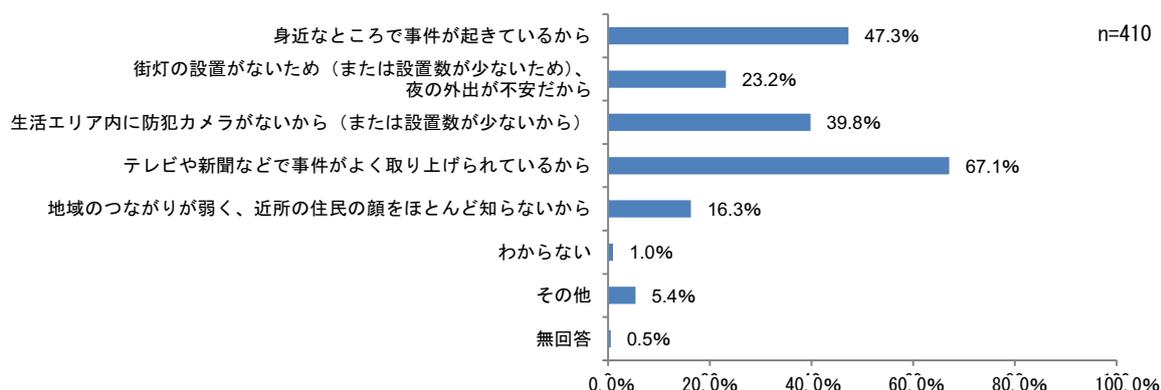
【居住年数別】

「たまにある」については、1～5年未満(55.3%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(53.2%)となっている。「ほとんどない」については、20年以上(41.1%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満と10～20年未満が同率(38.3%)となっている。

①よくある ②たまにある ③ほとんどない ④全くない ⑤無回答



問 26 ※「問 25」で選択肢 1 または 2 を選んだ方のみお答えください。
 あなたが不安を感じる要因について、次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」(67.1%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「身近なところで事件が起きているから」(47.3%)、「生活エリア内に防犯カメラがないから (または設置数が少ないから)」(39.8%)の順となっている。

【圏域別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、道北連携地域 (79.5%) が最も割合が高く、次いで道南連携地域 (70.6%) となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、道央広域連携地域 (54.0%) が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域 (42.9%) となっている。

【人口規模別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、町村部 (71.6%) が最も割合が高く、次いで人口 10 万人未満の市 (70.7%) となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、札幌市 (59.7%) が最も割合が高く、次いで人口 10 万人以上の市 (46.4%) となっている。

【性別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、男性 61.2%、女性 71.6% となっており、「身近なところで事件が起きているから」については、男性 51.9%、女性 43.6% となっている。

【年代別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、60～69 歳 (76.5%) が最も割合が高く、次いで 70 歳以上 (73.1%) となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、50～59 歳 (52.5%) が最も割合が高く、次いで 40～49 歳 (49.1%) となっている。

【職種別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、主婦 (79.2%) が最も割合が高く、次いでその他 (78.4%) となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、自営業 (商工サービス業) (67.7%) が最も割合が高く、次いで自由業 (66.7%) となっている。

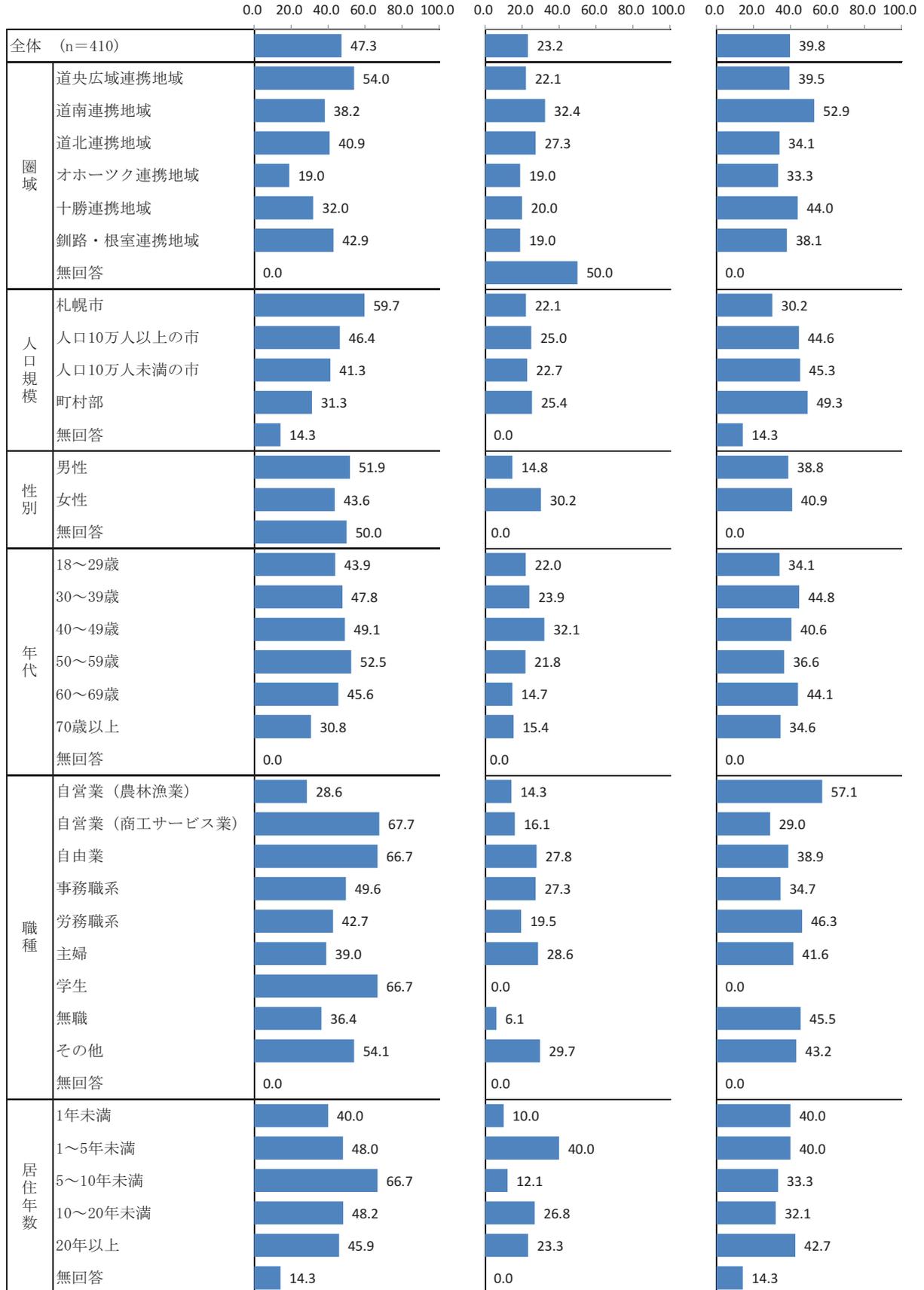
【居住年数別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、10～20 年未満 (67.9%) が最も割合が高く、次いで 20 年以上 (67.4%) となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、5～10 年未満 (66.7%) が最も割合が高く、次いで 10～20 年未満 (48.2%) となっている。

身近なところで事件が起きて
いるから

街灯の設置がないため（また
は設置数が少ないため）、夜
の外出が不安だから

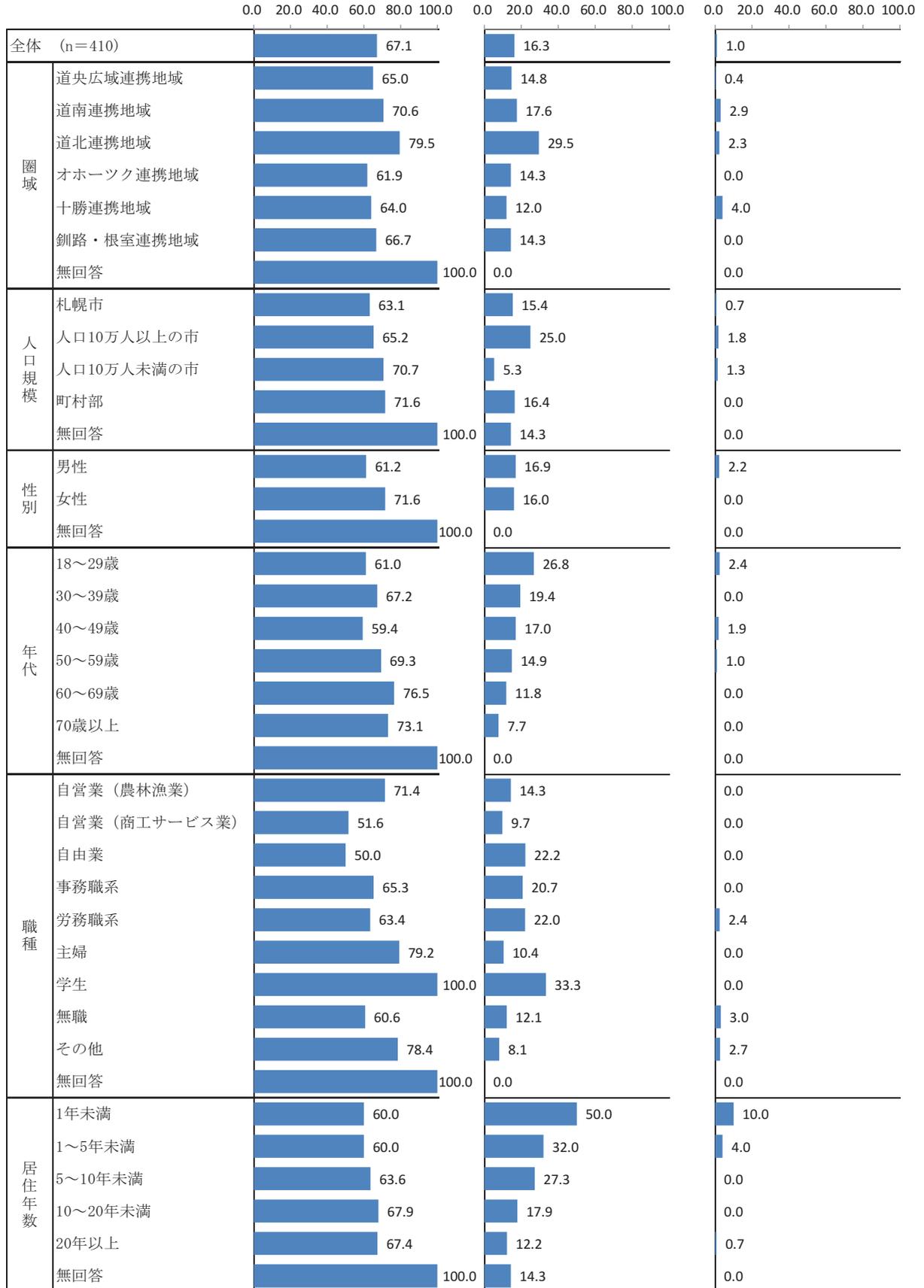
生活エリア内に防犯カメラが
ないから（または設置数が少
ないから）



テレビや新聞などで事件がよく
取り上げられているから

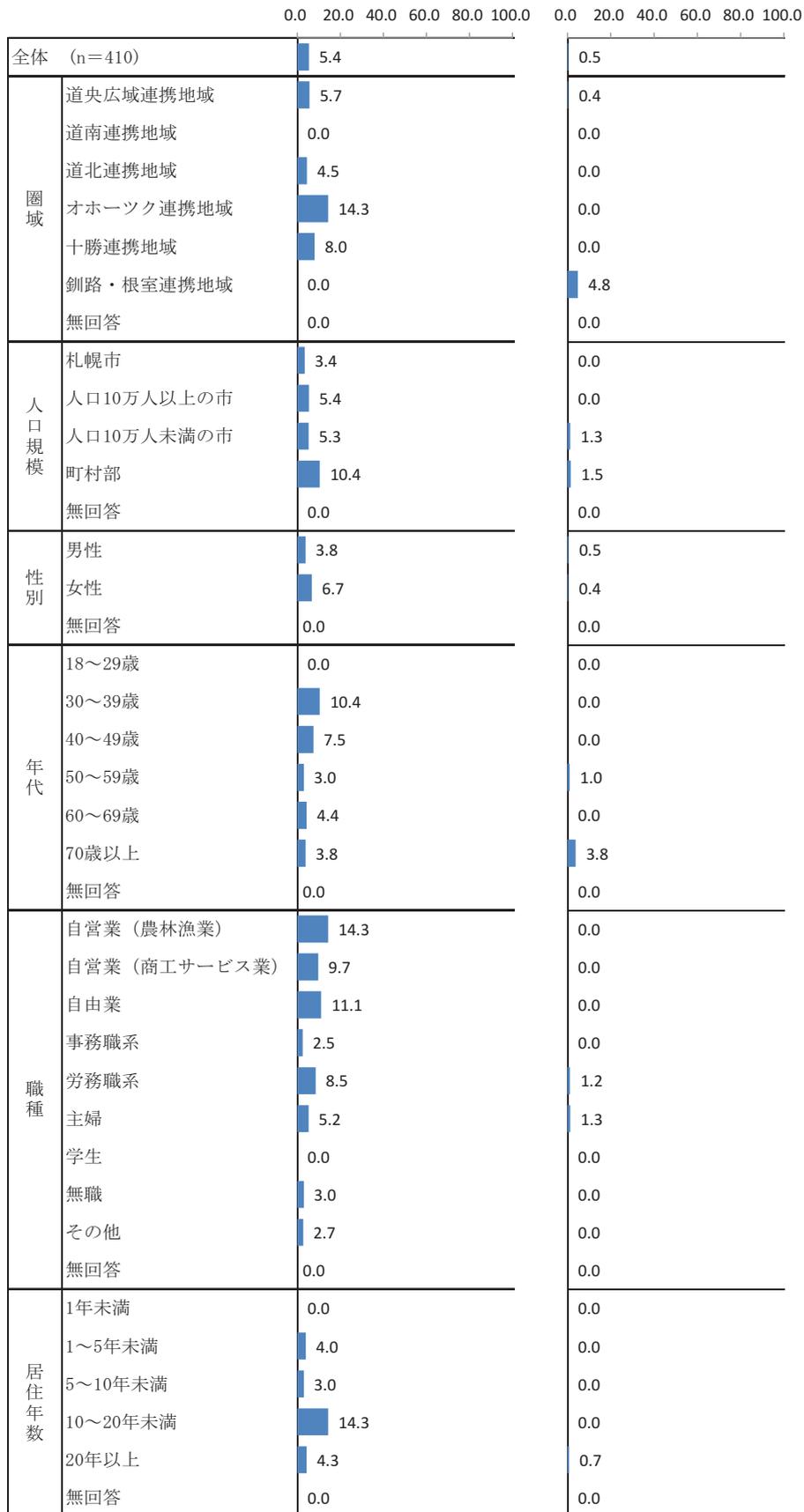
地域のつながりが弱く、近所
の住民の顔をほとんど知らないから

わからない

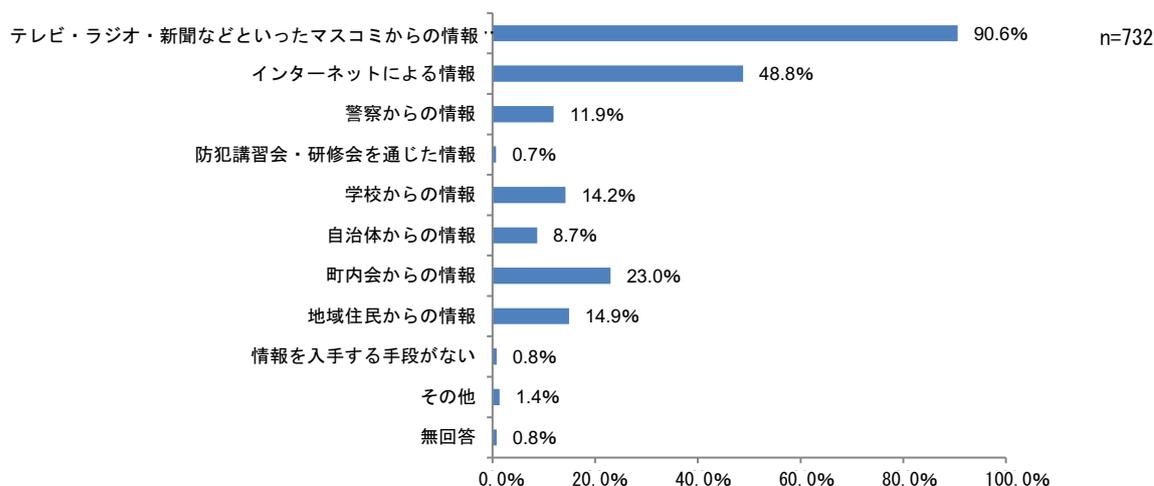


その他

無回答



問 27 あなたは、地域で起きている犯罪をどのような手段で知りますか。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報」(90.6%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「インターネットによる情報」(48.8%)、「町内会からの情報」(23.0%)の順となっている。

【圏域別】

「テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報」については、オホーツク連携地域(100.0%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(93.0%)となっている。「インターネットによる情報」については、道北連携地域(55.7%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(51.5%)となっている。

【人口規模別】

「テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報」については、札幌市(92.9%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(92.1%)となっている。「インターネットによる情報」については、札幌市(52.6%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(50.8%)となっている。

【性別】

「テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報」については、男性92.3%、女性89.4%となっており、「インターネットによる情報」については、男性51.0%、女性46.9%となっている。

【年代別】

「テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報」については、50～59歳と60～69歳が同率(93.4%)で最も割合が高く、次いで70歳以上(92.7%)となっている。「インターネットによる情報」については、18～29歳(82.5%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(68.6%)となっている。

【職種別】

「テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報」については、自由業(96.2%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(95.0%)となっている。「インターネットによる情報」については、自由業(65.4%)が最も割合が高く、次いで事務職系(56.5%)となっている。

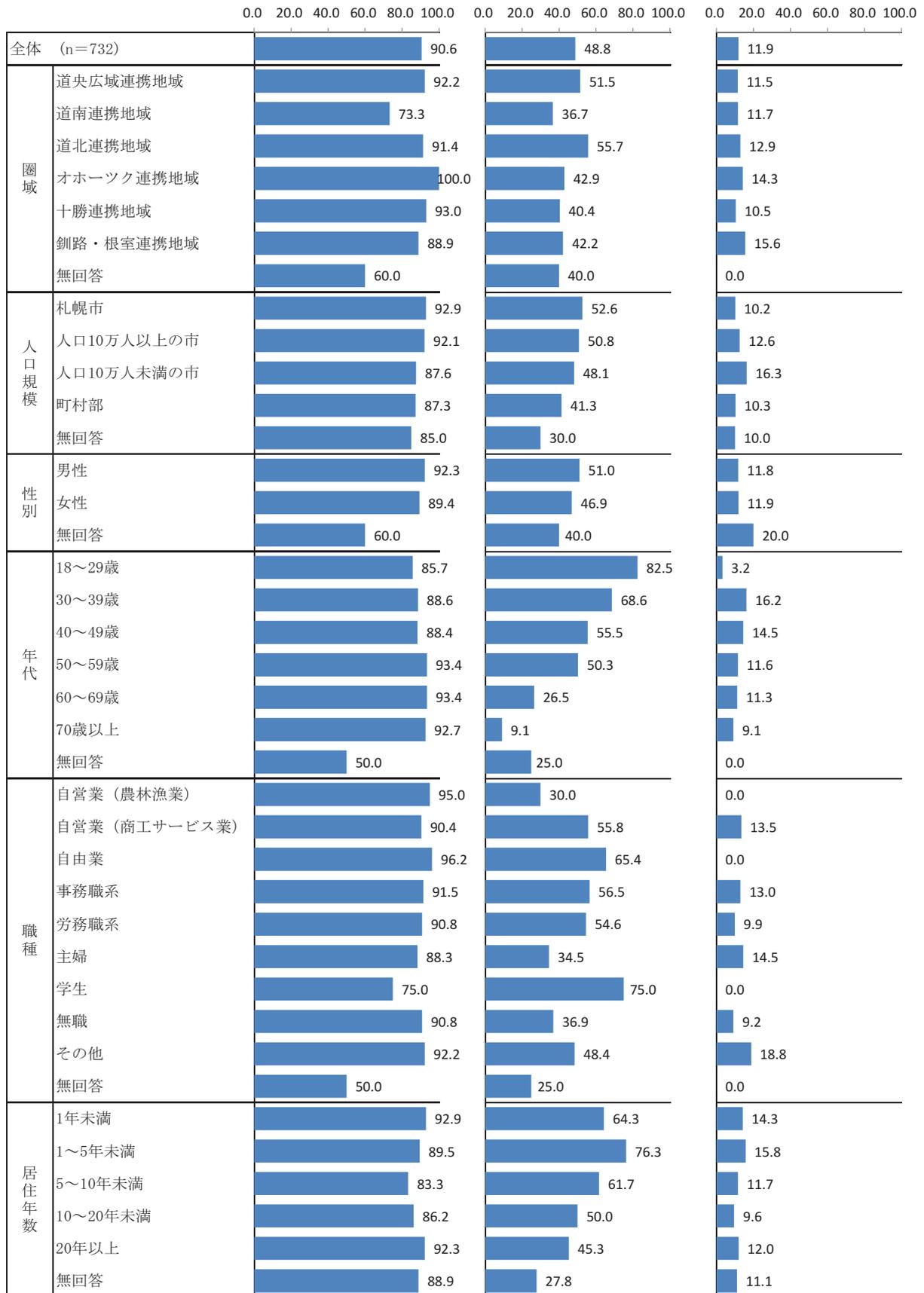
【居住年数別】

「テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報」については、1年未満(92.9%)が最も割合が高く、次いで20年以上(92.3%)となっている。「インターネットによる情報」については、1～5年未満(76.3%)が最も割合が高く、次いで1年未満(64.3%)となっている。

テレビ・ラジオ・新聞など
といったマスコミからの情報

インターネットによる情報

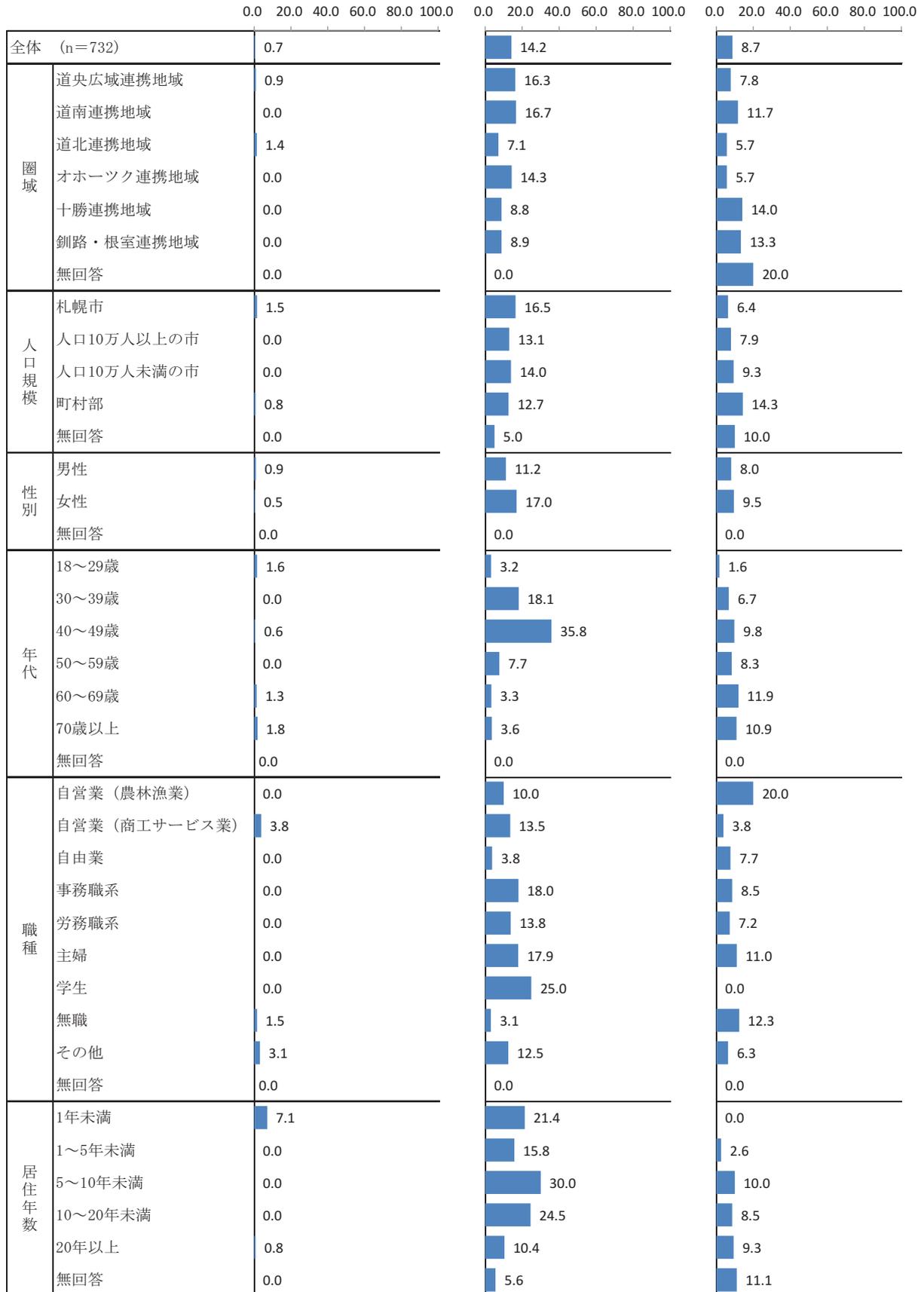
警察からの情報



防犯講習会・研修会を通じた情報

学校からの情報

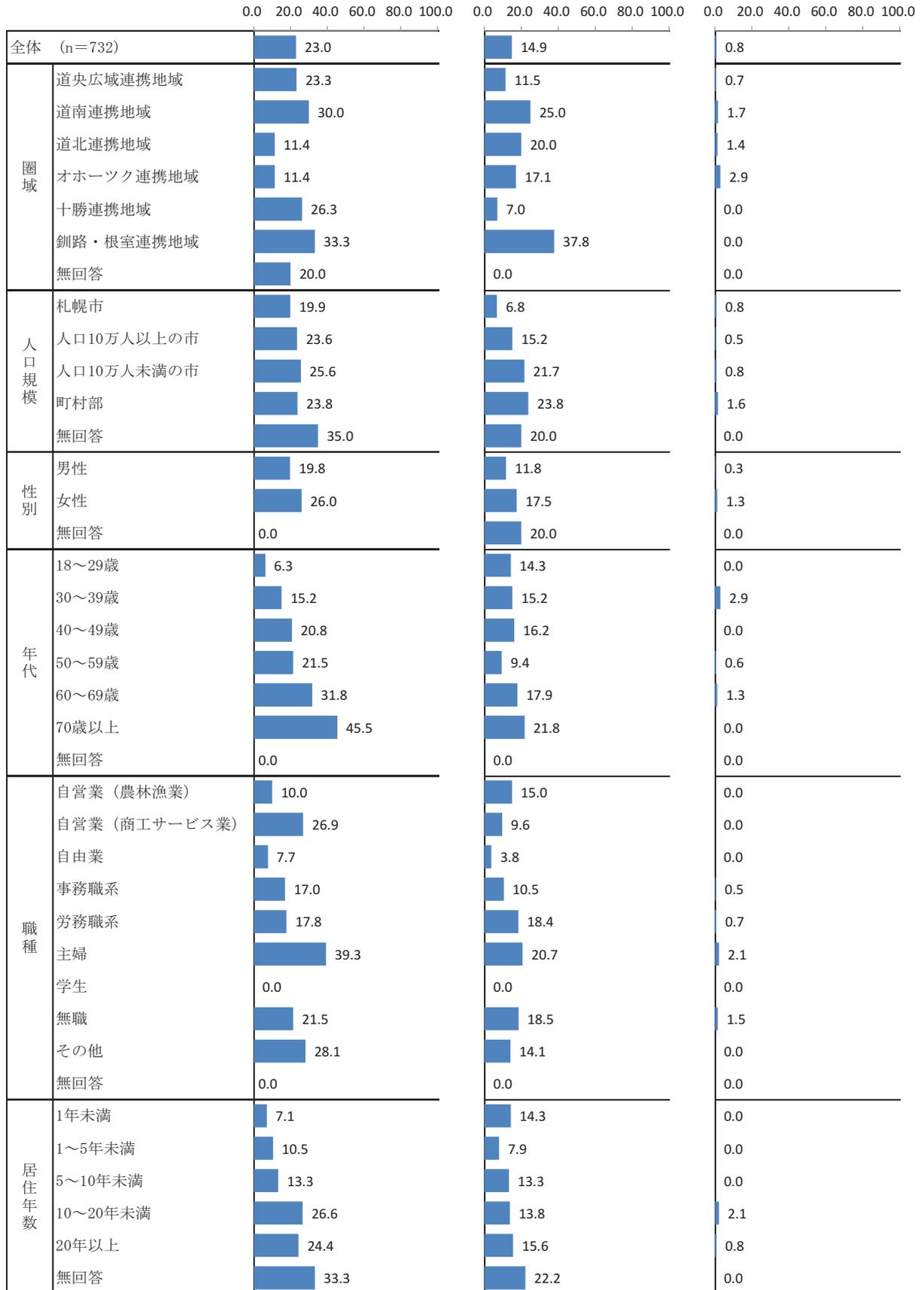
自治体からの情報



町内会からの情報

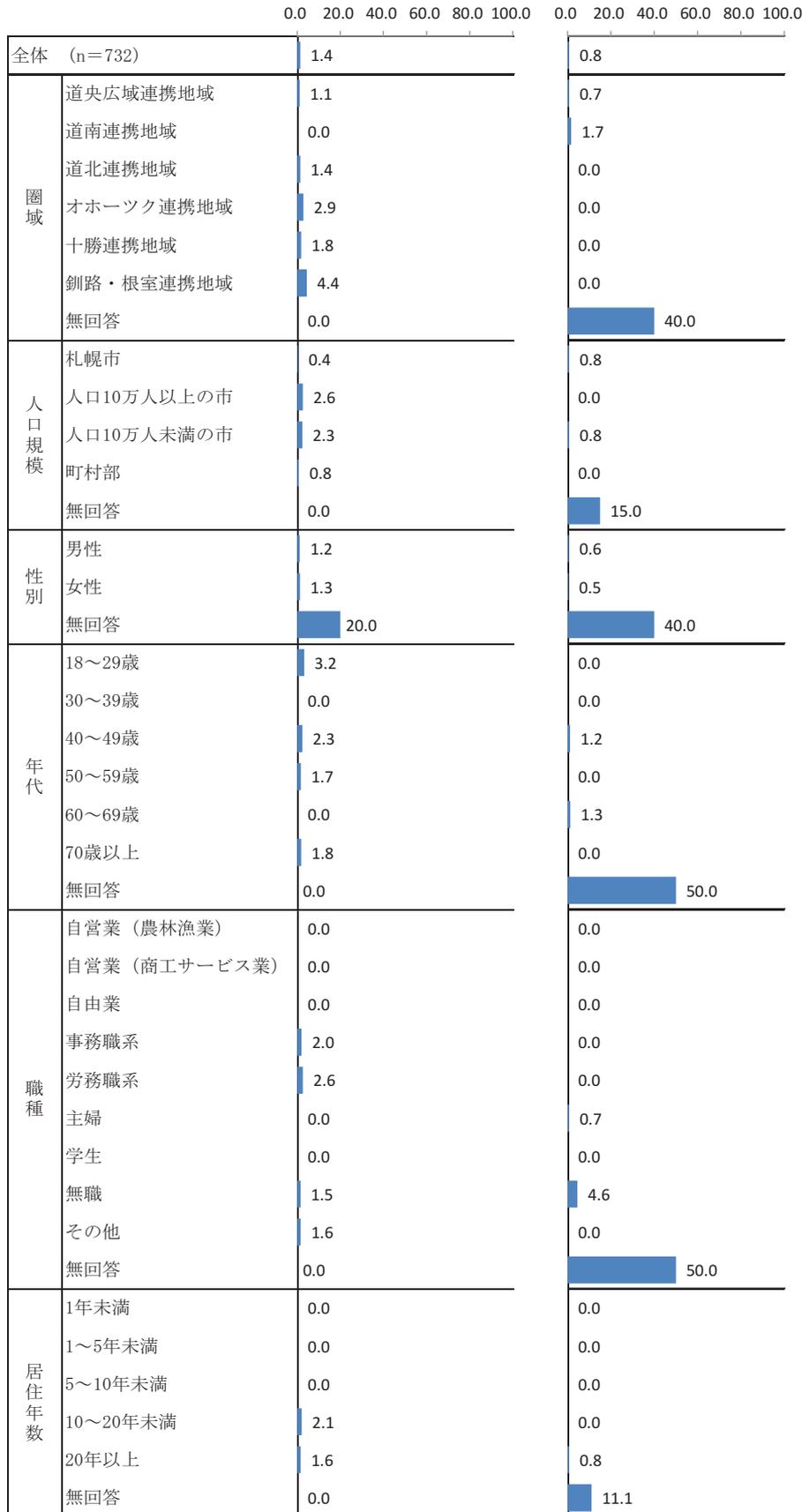
地域住民からの情報

情報を入手する手段がない

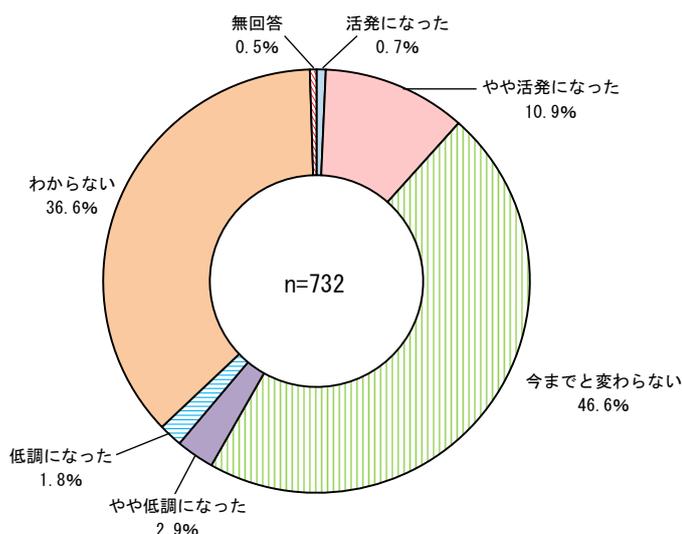


その他

無回答



問 28 あなたの居住地域で行われているここ数年の防犯活動の状況について、どのように感じていますか。次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「今までと変わらない」(46.6%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「わからない」(36.6%)、「やや活発になった」(10.9%)の順となっている。

【圏域別】

「今までと変わらない」については、十勝連携地域(61.4%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(48.9%)となっている。「わからない」については、オホーツク連携地域(45.7%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(40.7%)となっている。

【人口規模別】

「今までと変わらない」については、町村部(57.9%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(46.6%)となっている。「わからない」については、札幌市(44.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(41.1%)となっている。

【性別】

「今までと変わらない」については、男性45.7%、女性47.7%となっており、「わからない」については、男性34.8%、女性38.4%となっている。

【年代別】

「今までと変わらない」については、70歳以上(56.4%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(53.0%)となっている。「わからない」については、30～39歳(47.6%)が最も割合が高く、次いで18～29歳(39.7%)となっている。

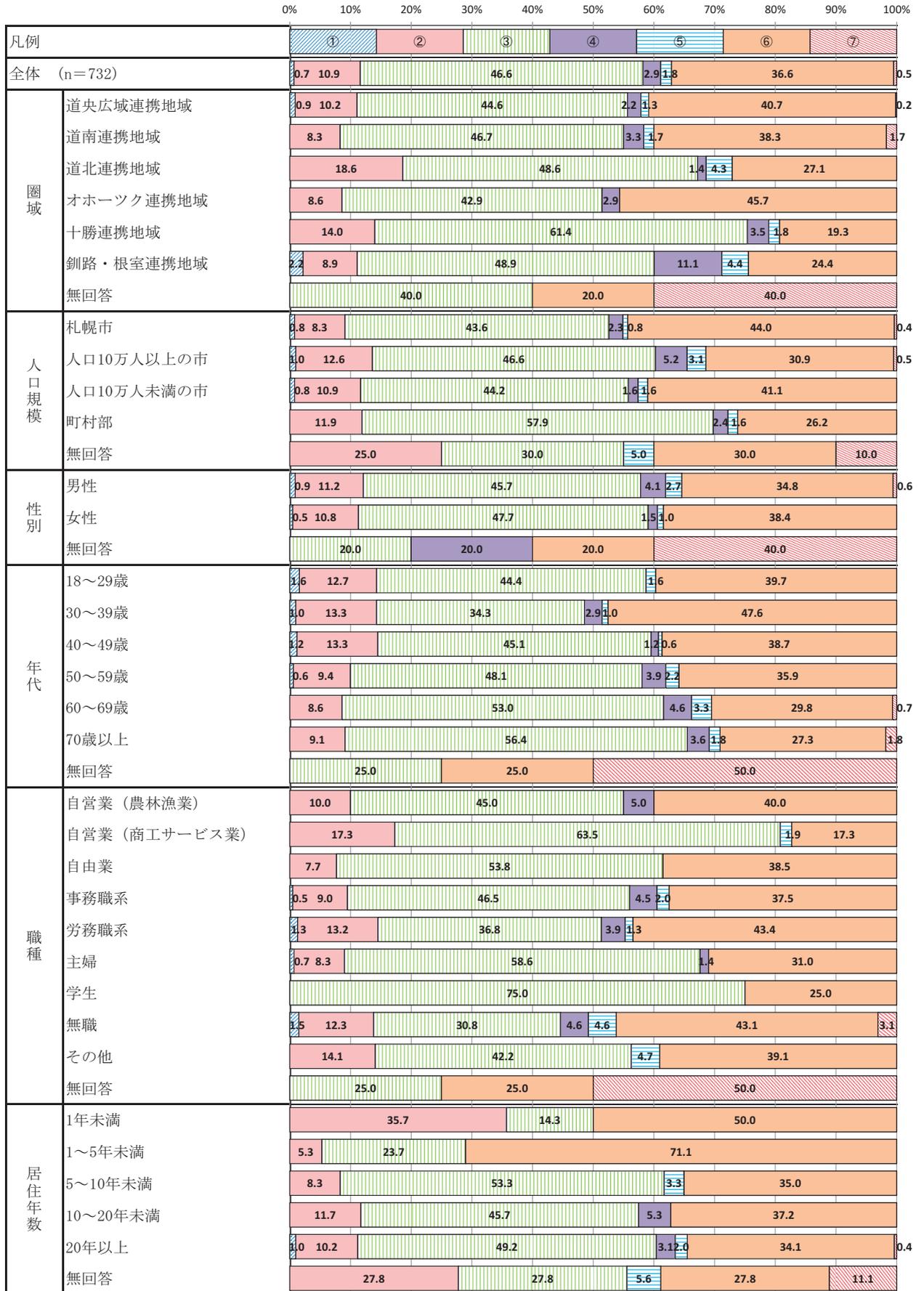
【職種別】

「今までと変わらない」については、自営業(商工サービス業)(63.5%)が最も割合が高く、次いで主婦(58.6%)となっている。「わからない」については、労務職系(43.4%)が最も割合が高く、次いで無職(43.1%)となっている。

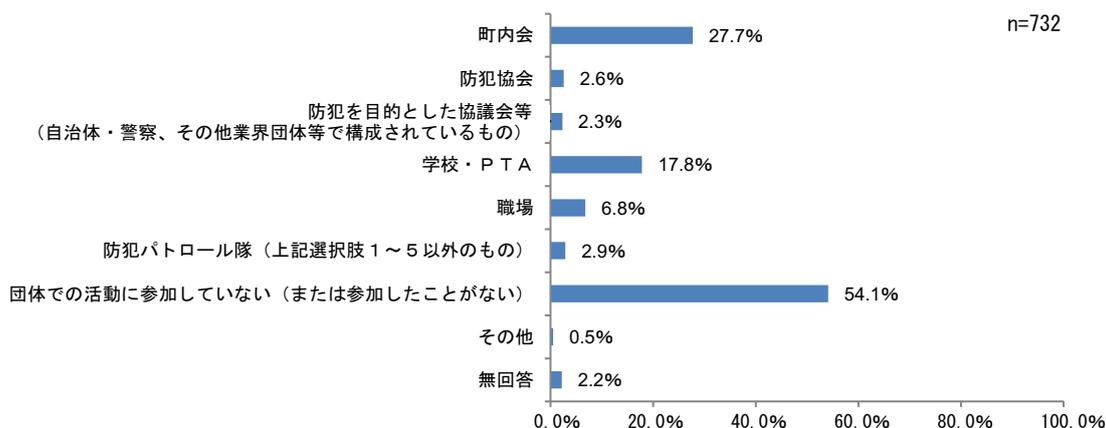
【居住年数別】

「今までと変わらない」については、5～10年未満(53.3%)が最も割合が高く、次いで20年以上(49.2%)となっている。「わからない」については、1～5年未満(71.1%)が最も割合が高く、次いで1年未満(50.0%)となっている。

①活発になった ②やや活発になった ③今までと変わらない ④やや低調になった
 ⑤低調になった ⑥わからない ⑦無回答



問 29 あなたは、地域を犯罪被害から守るために、どのような団体での活動に参加（過去に参加していたでも可）していますか。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「団体での活動に参加していない (または参加したことがない)」(54.1%) と答えた方の割合が最も高く、次いで「町内会」(27.7%)、「学校・PTA」(17.8%) の順となっている。

【圏域別】

「団体での活動に参加していない (または参加したことがない)」については、オホーツク連携地域 (62.9%) が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域 (56.1%) となっている。「町内会」については、釧路・根室連携地域 (42.2%) が最も割合が高く、次いで十勝連携地域 (42.1%) となっている。

【人口規模別】

「団体での活動に参加していない (または参加したことがない)」については、札幌市 (59.0%) が最も割合が高く、次いで町村部 (57.9%) となっている。「町内会」については、町村部 (31.0%) が最も割合が高く、次いで札幌市 (27.1%) となっている。

【性別】

「団体での活動に参加していない (または参加したことがない)」については、男性 56.3%、女性 52.3% となっており、「町内会」については、男性 26.5%、女性 28.9% となっている。

【年代別】

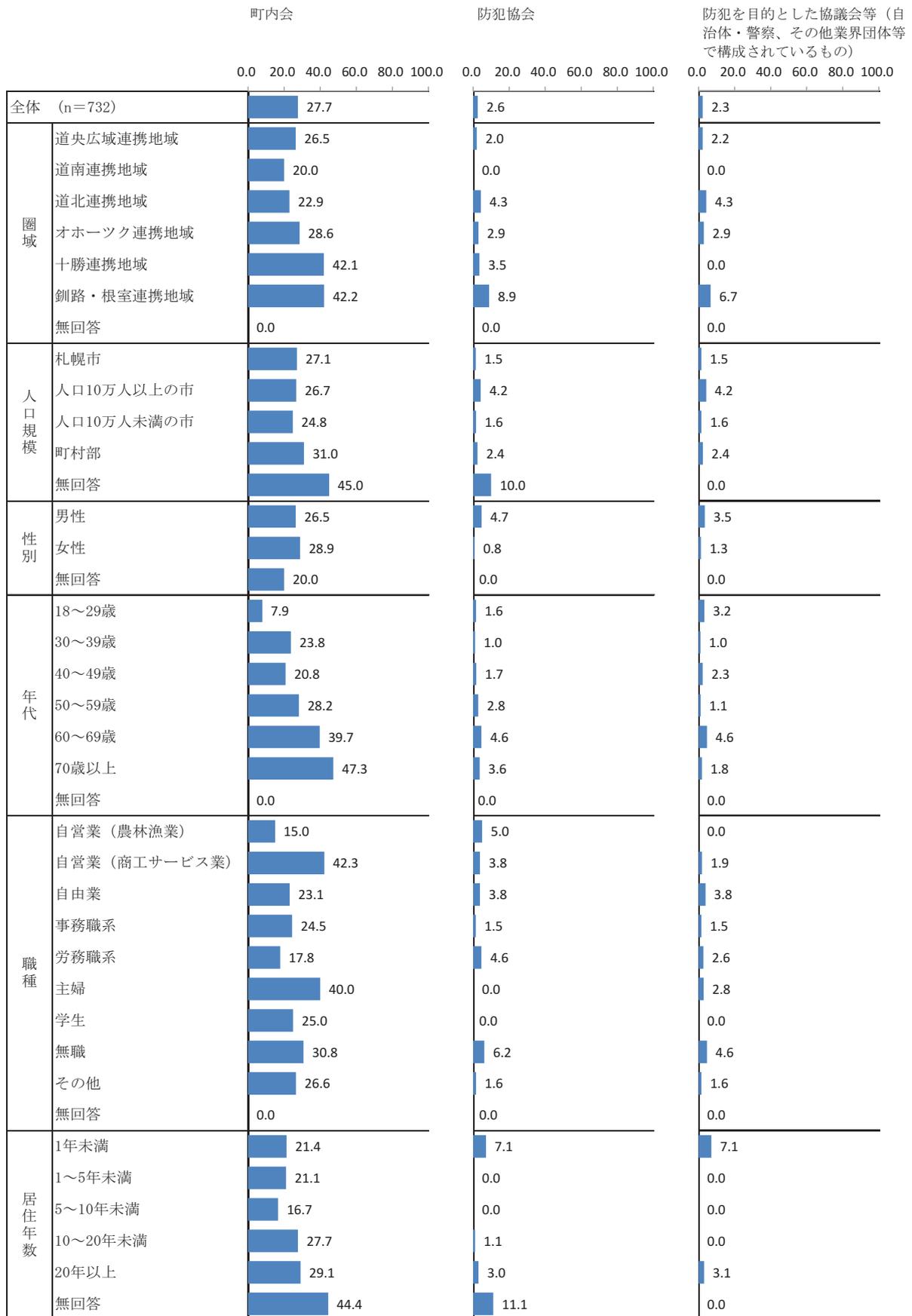
「団体での活動に参加していない (または参加したことがない)」については、18～29 歳 (79.4%) が最も割合が高く、次いで 30～39 歳 (61.0%) となっている。「町内会」については、70 歳以上 (47.3%) が最も割合が高く、次いで 60～69 歳 (39.7%) となっている。

【職種別】

「団体での活動に参加していない (または参加したことがない)」については、自営業 (農林漁業) (75.0%) が最も割合が高く、次いで労務職系 (59.9%) となっている。「町内会」については、自営業 (商工サービス業) (42.3%) が最も割合が高く、次いで主婦 (40.0%) となっている。

【居住年数別】

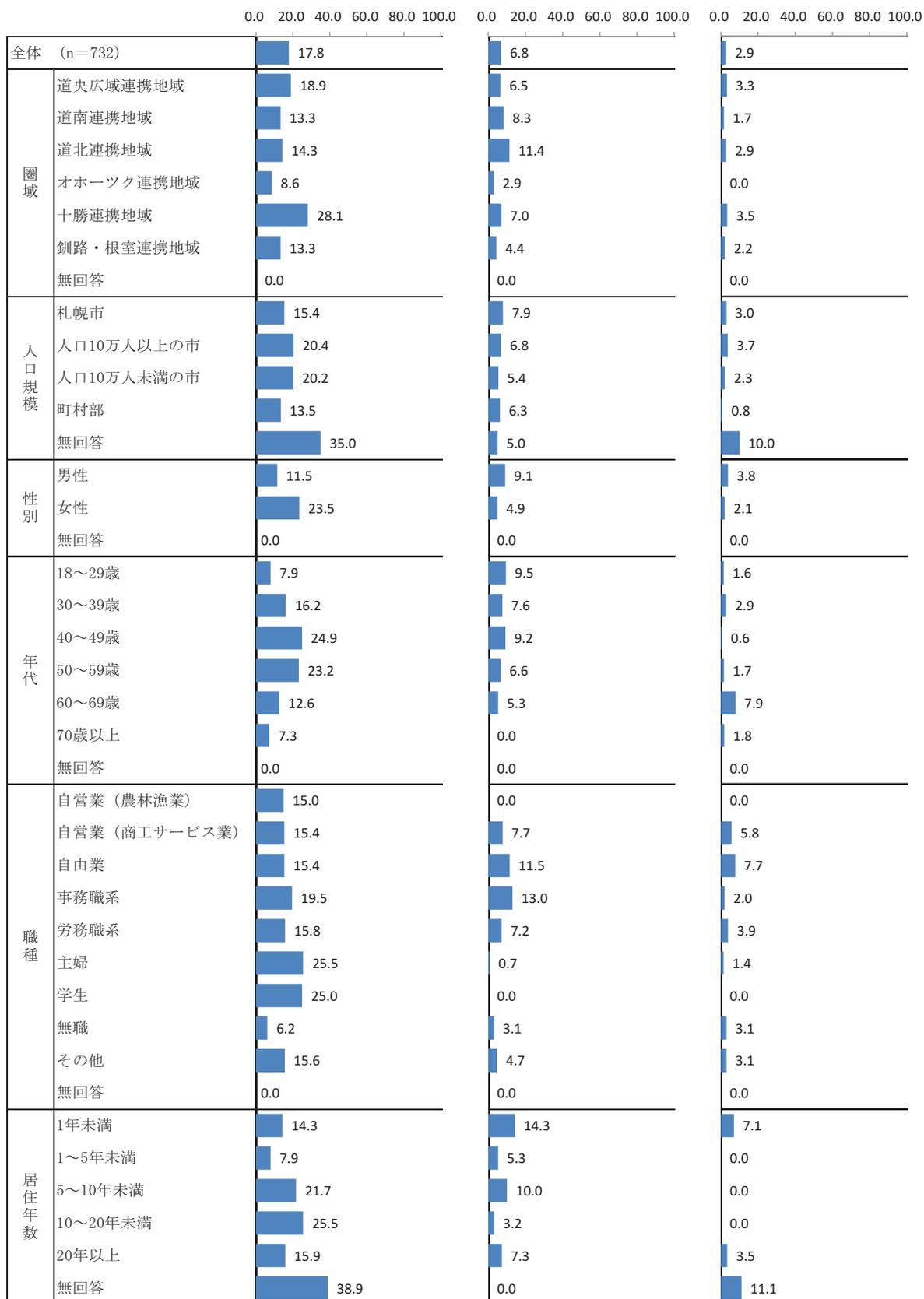
「団体での活動に参加していない (または参加したことがない)」については、1～5 年未満 (71.1%) が最も割合が高く、次いで 5～10 年未満 (60.0%) となっている。「町内会」については、20 年以上 (29.1%) が最も割合が高く、次いで 10～20 年未満 (27.7%) となっている。



学校・PTA

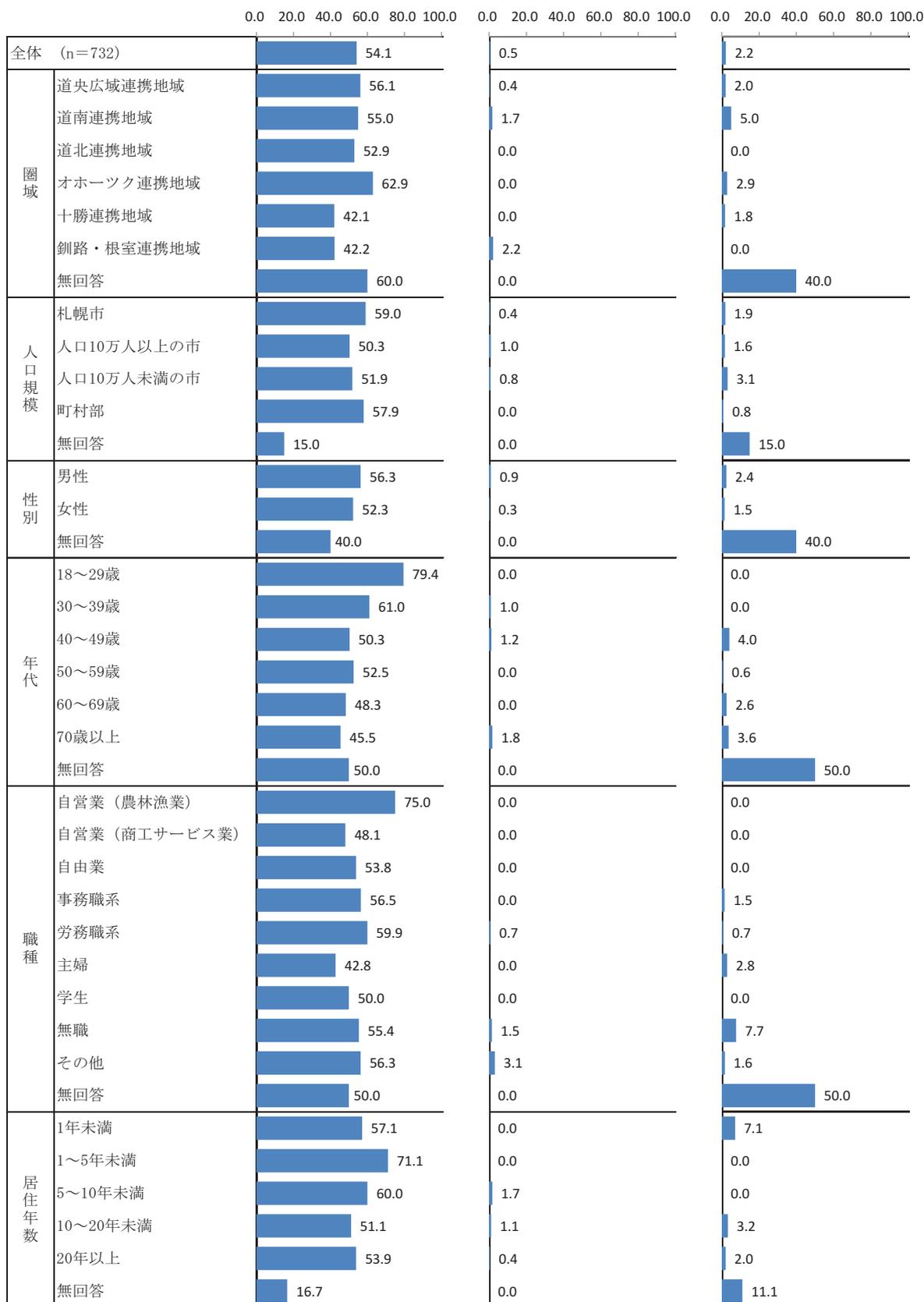
職場

防犯パトロール隊（上記選択肢
1～5以外のもの）

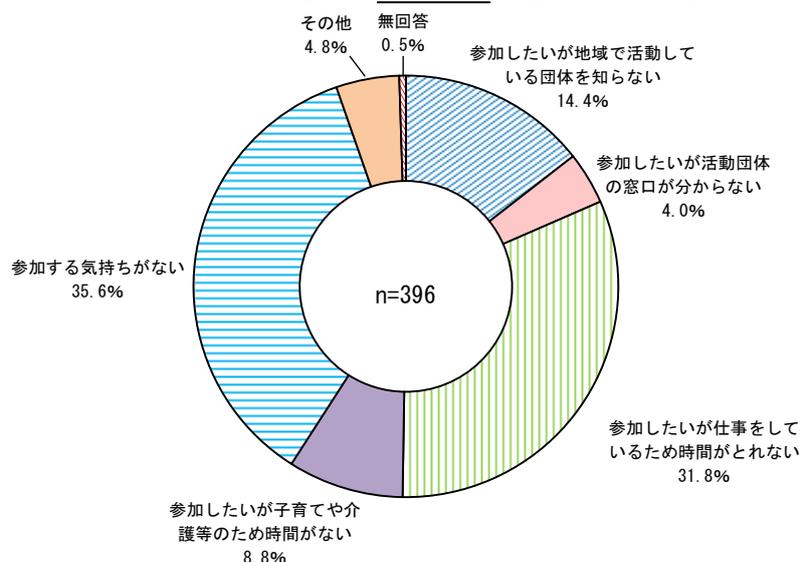


団体での活動に参加していない その他
(または参加したことがない)

無回答



問 30 ※「問 29」で選択肢 7 を選んだ方のみお答えください。
 あなたが、地域を犯罪被害から守るため、団体での活動に参加していない（または参加したことがない）理由について、次の中から 1 つだけお選びください。



【全体】

「参加する気持ちはない」(35.6%) と答えた方の割合が最も高く、次いで「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」(31.8%)、「参加したいが地域で活動している団体を知らない」(14.4%) の順となっている。

【圏域別】

「参加する気持ちはない」については、十勝連携地域 (50.0%) が最も割合が高く、次いで道北連携地域 (37.8%) となっている。「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、オホーツク連携地域 (54.5%) が最も割合が高く、次いで道北連携地域 (35.1%) となっている。

【人口規模別】

「参加する気持ちはない」については、町村部 (39.7%) が最も割合が高く、次いで札幌市 (37.6%) となっている。「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、町村部 (34.2%) が最も割合が高く、次いで人口 10 万人未満の市 (32.8%) となっている。

【性別】

「参加する気持ちはない」については、男性 41.4%、女性 30.0% となっており、「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、男性 34.6%、女性 29.6% となっている。

【年代別】

「参加する気持ちはない」については、30～39 歳 (42.2%) が最も割合が高く、次いで 40～49 歳 (40.2%) となっている。「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、50～59 歳 (44.2%) が最も割合が高く、次いで 18～29 歳 (32.0%) となっている。

【職種別】

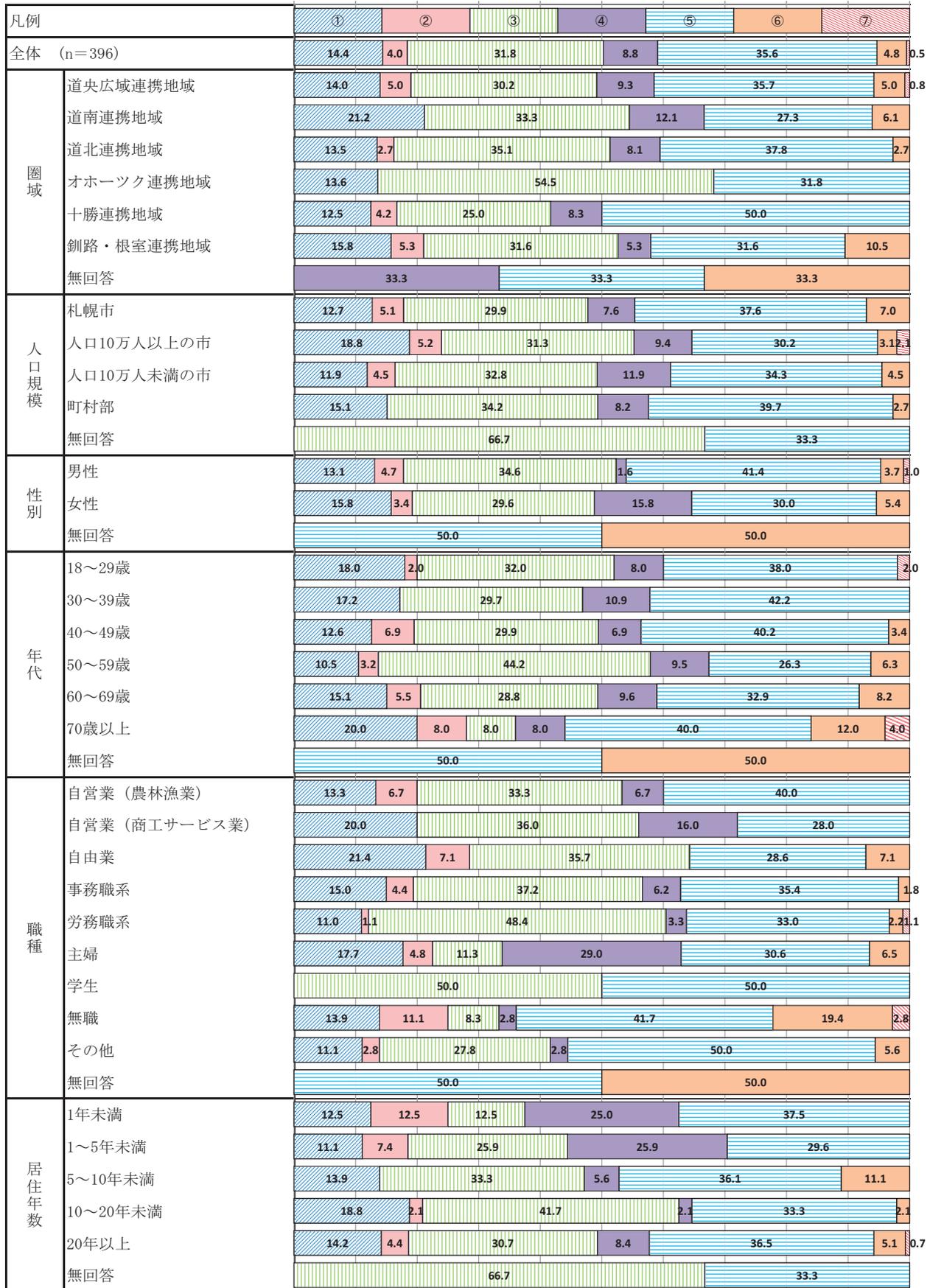
「参加する気持ちはない」については、その他 (50.0%) が最も割合が高く、次いで無職 (41.7%) となっている。「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、労務職系 (48.4%) が最も割合が高く、次いで事務職系 (37.2%) となっている。

【居住年数別】

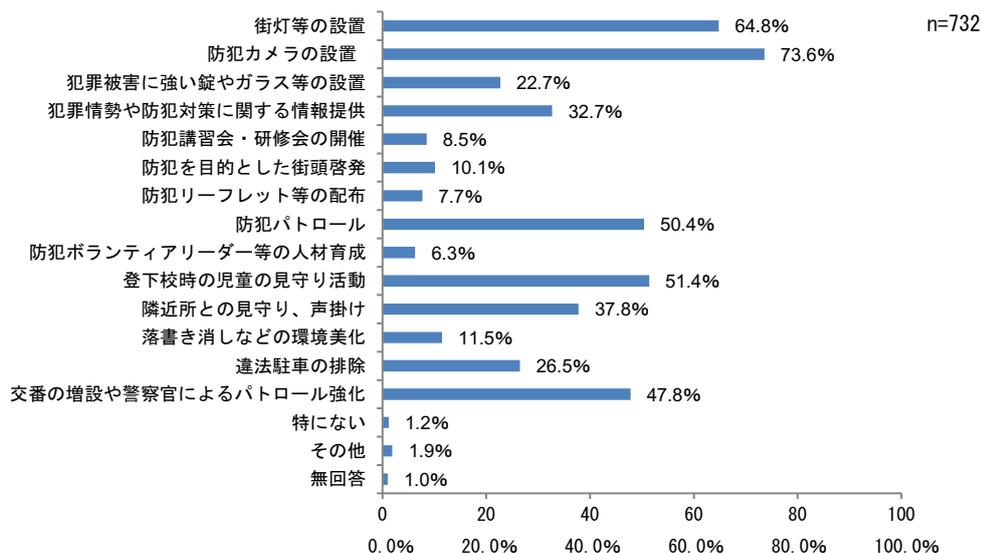
「参加する気持ちはない」については、1 年未満 (37.5%) が最も割合が高く、次いで 20 年以上 (36.5%) となっている。「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、10～20 年未満 (41.7%) が最も割合が高く、次いで 5～10 年未満 (33.3%) となっている。

①参加したいが地域で活動している団体を知らない ②参加したいが活動団体の窓口が分からない ③参加したいが仕事をしているため時間がとれない ④参加したいが子育てや介護等のため時間がない ⑤参加する気持ちがない ⑥その他 ⑦無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問 31 あなたは、地域を犯罪被害から守るために、どのような活動や対策が必要だと思いますか。次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「防犯カメラの設置」(73.6%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「街灯等の設置」(64.8%)、「登下校時の児童の見守り活動」(51.4%)の順となっている。

【圏域別】

「防犯カメラの設置」については、オホーツク連携地域(77.1%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(76.7%)となっている。「街灯等の設置」については、釧路・根室連携地域(73.3%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(71.7%)となっている。

【人口規模別】

「防犯カメラの設置」については、町村部(76.2%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(75.2%)となっている。「街灯等の設置」については、人口10万人以上の市(70.2%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(65.1%)となっている。

【性別】

「防犯カメラの設置」については、男性72.3%、女性75.3%となっており、「街灯等の設置」については、男性56.9%、女性72.2%となっている。

【年代別】

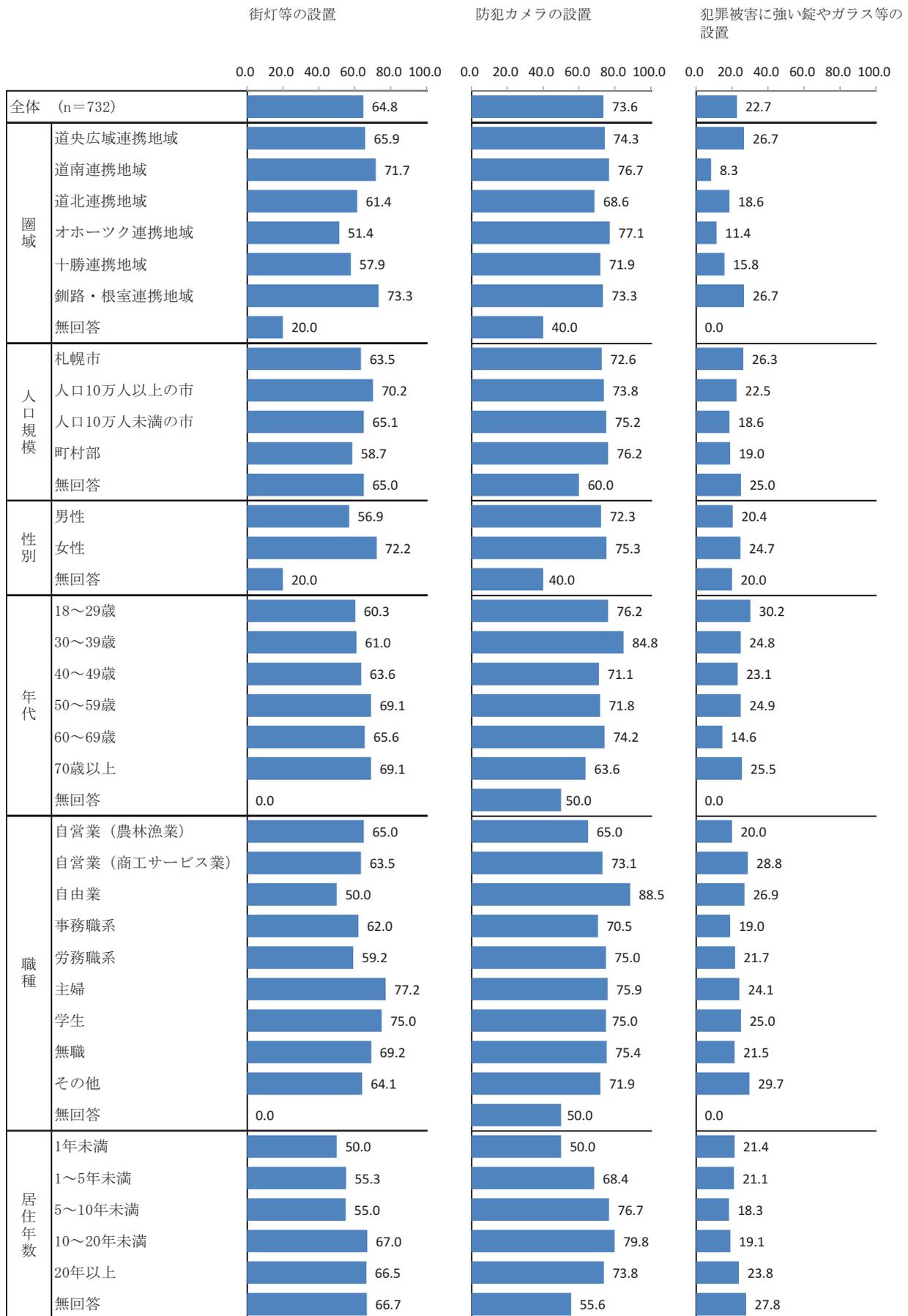
「防犯カメラの設置」については、30～39歳(84.8%)が最も割合が高く、次いで18～29歳(76.2%)となっている。「街灯等の設置」については、50～59歳と70歳以上が同率(69.1%)で最も割合が高く、次いで60～69歳(65.6%)となっている。

【職種別】

「防犯カメラの設置」については、自由業(88.5%)が最も割合が高く、次いで主婦が(75.9%)となっている。「街灯等の設置」については、主婦(77.2%)が最も割合が高く、次いで無職(69.2%)となっている。

【居住年数別】

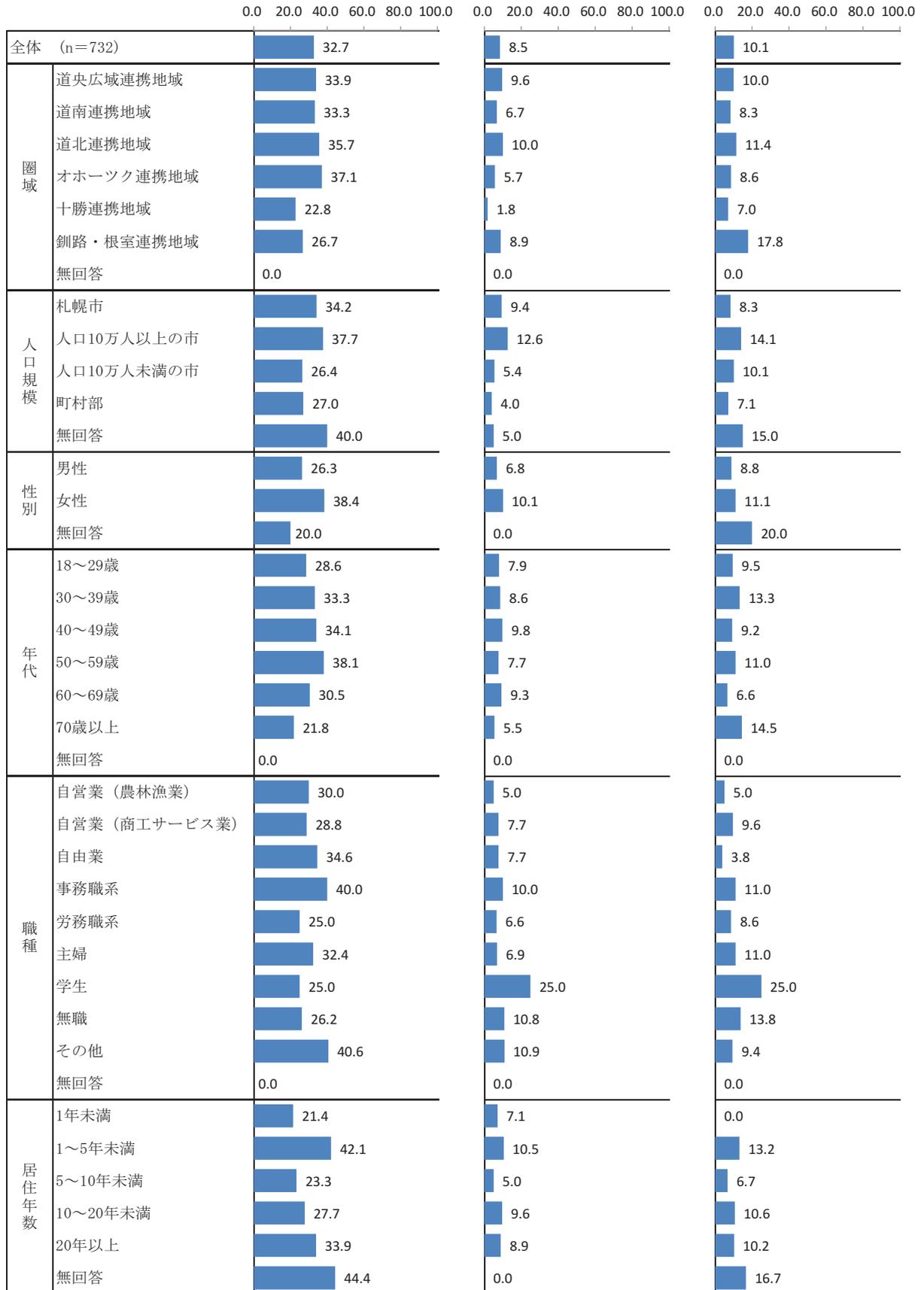
「防犯カメラの設置」については、10～20年未満(79.8%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(76.7%)となっている。「街灯等の設置」については、10～20年未満(67.0%)が最も割合が高く、次いで20年以上(66.5%)となっている。



犯罪情勢や防犯対策に関する
情報提供

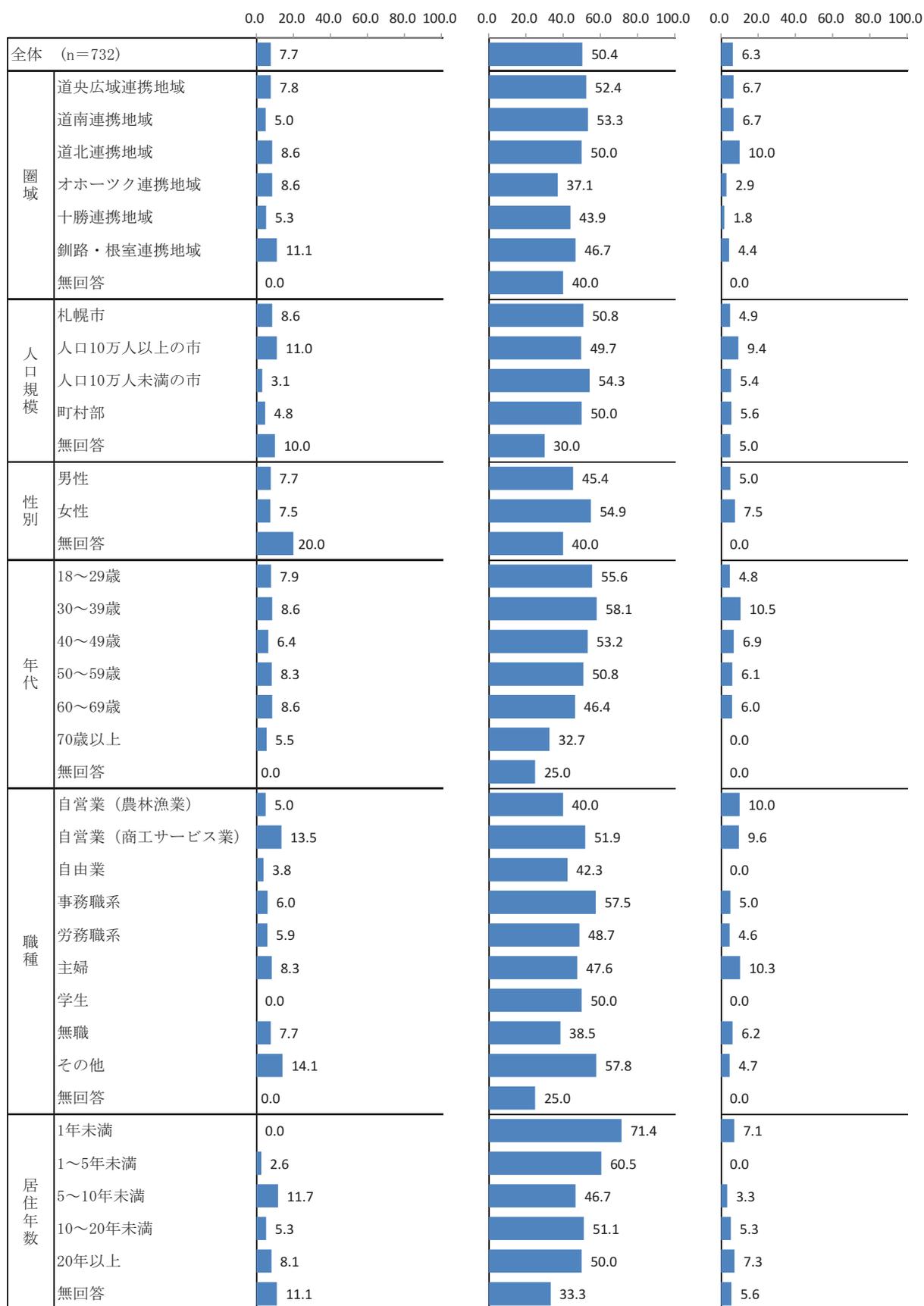
防犯講習会・研修会の開催

防犯を目的とした街頭啓発



防犯リーフレット等の配布

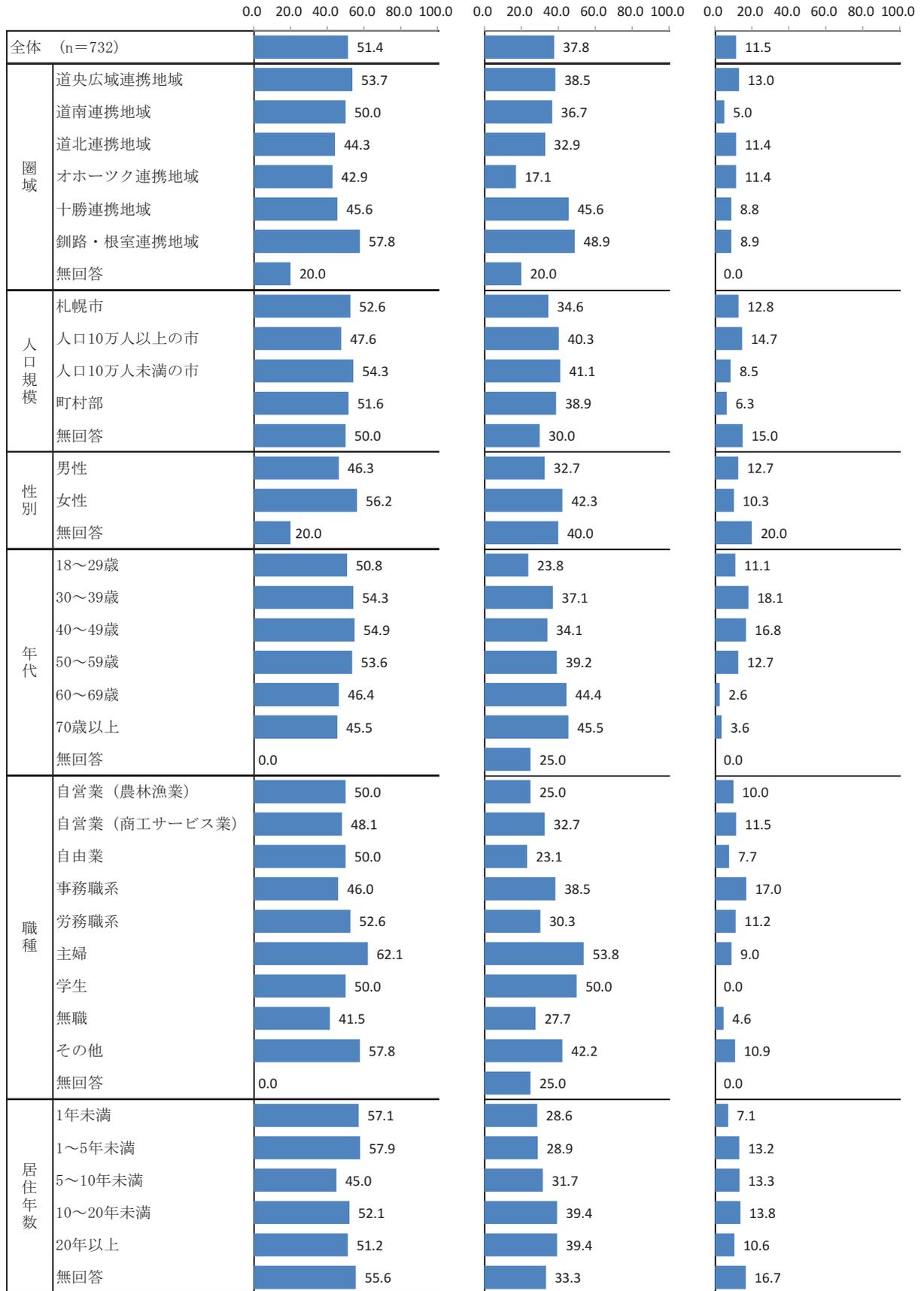
防犯パトロール

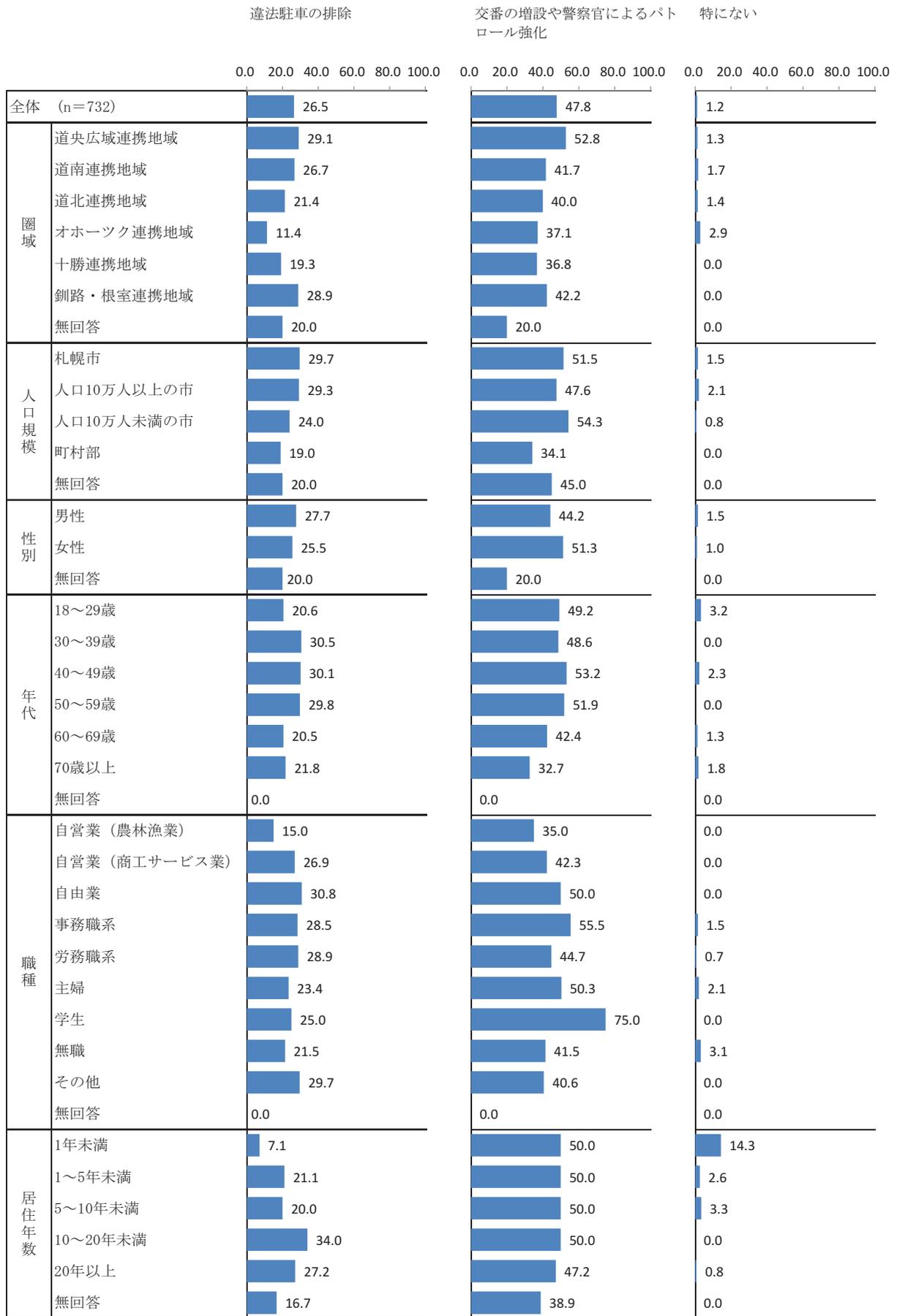
防犯ボランティアリーダー等の
人材育成

登下校時の児童の見守り活動

隣近所との見守り、声掛け

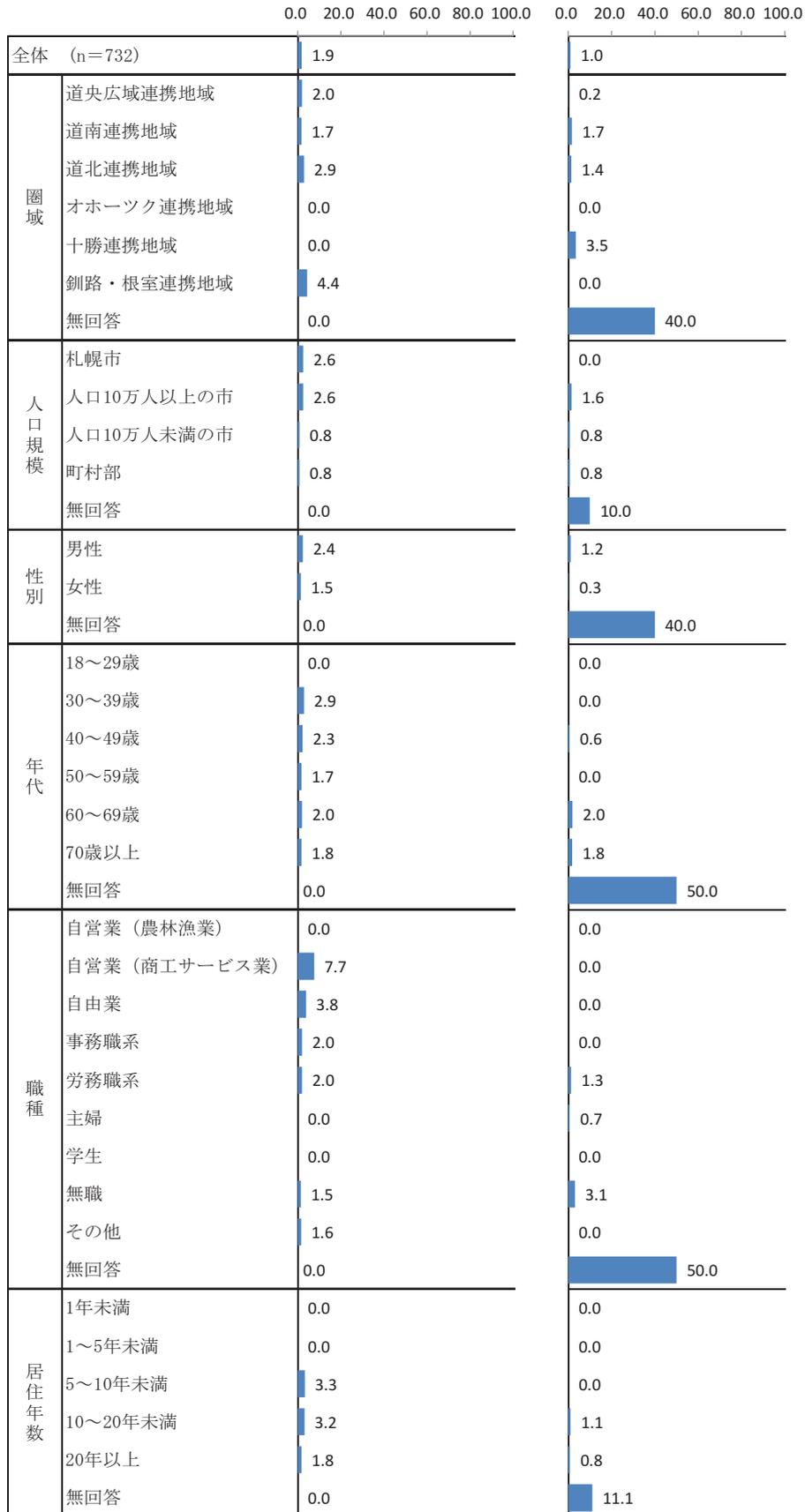
落書き消しなどの環境美化





その他

無回答



■「犯罪のない安全で安心な地域づくりについて」の調査を終えて

道内における平成30年中の刑法犯認知件数は、2万5,459件で、平成15年以降16年連続で減少し、ピーク時の平成14年と比較すると7割以上の減少と、数値的な治安は改善傾向にあるものの、犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じることにについて、「よくある」(7.8%)、「たまにある」(48.2%)と回答された方をあわせると全体の半数を超えており、体感的な治安の改善は十分とは言えない状況にある。

また、犯罪防止に必要な活動については、「防犯カメラの設置」(73.6%)と回答された方が7割を越え、前回調査時と比較すると1割以上増加するなど、多くの方がハード面での整備の必要性を感じているという結果となった。

更に、地域防犯団体の活動への参加状況では、「参加していない(参加したことがない)」(54.1%)と回答された方が半数を占めており、そのうち、「(阻害要因がなければ)団体での活動に参加したい」と回答された方が約6割、「参加する気持ちはない」(35.6%)と回答された方が約4割であった。

こうした結果を踏まえ、今後も関係機関・団体と連携し、治安上の課題を的確に把握して対応するとともに、道民運動である安全・安心どさんこ運動の普及や防犯情報発信等の防犯施策を推進するなど、安全で安心して暮らすことのできる北海道の実現に向けて、道民と一体となって更なる取組を進めていく。

(環境生活部くらし安全局道民生活課)
(北海道警察本部生活安全部生活安全企画課)